



ユネスコエコパークに登録された、静岡市井川と川根本町の魅力を伝える、地域でつくる新聞

# 井川と川根をつなぐ いかわね新聞 No.6

関の沢橋梁

いかわね新聞 第6号 2017年3月1日発行(年3回発行)  
発行南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会  
〒4208602 静岡市葵区追手町5の1 静岡市環境創造課内  
TEL054(221)1357

【会員】静岡森林管理署、天竜森林管理署、静岡県、静岡市、川根本町、株持種東海アオレスト、中部電力(株)静岡支店、しずてつジャストライン(株)、川根本町森林レクリエーション推進協議会、自然公園指導員、井川観光協会、川根本町まちづくり観光協会、南アルプス・井川エコツーリズム推進協議会、一般社団法人エコイかわね

【会の紹介】南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会は、南アルプス周辺地域の自然環境の保全と文化の継承を図り、その持続可能な利活用を推進することを目的とした協議会です。※この新聞では「川根本町の情報をいかわね」と表記しています。

## 2017 3月~ いかわねの イベントカレンダー

3月	11日(土)	いかわね	南アルプスあぶとライン 全線復旧
	11~12日(土・日)	かわね	SLフェスタin千頭
	18日(土)	いかわね	南アルプスあぶとライン 全線復旧記念式典/おかしりイベント
4月	19日(日)	いかわ	ダムツアー(井川ダム)
	20日(月・祝)	かわね	ダムツアー(長島ダム)
	2日(日)	かわね	徳山さくら祭り
5月	中旬	かわね	献茶式、川根茶の日
	29日(土・祝)	いかわ	二軒小屋・榎島ロッジ営業開始 大井川源流特定区釣り場開設
	29日(土・祝)	いかわ	赤石温泉まつり(白樺荘)
6月	4日(木・祝)	いかわ	あまごの里釣りまつり(東河内)
	5日(金・祝)	いかわ	春まつり in井川ビジターセンター
	中旬	かわね	ホテル観賞

※予定は変更される場合があります。詳しくは下記までお気軽にお問合せください。  
井川観光協会 ☎054-260-2377  
川根本町まちづくり観光協会 ☎0547-59-2746



【渡船利用可能日】土日祝日  
※4月第4週~12月第1週は平日も運行

### 井川湖渡船プレミアム缶バッジ かなりの人気で...

みなさん井川湖の渡船「赤石丸」をご存じですか?井川湖の周遊ができる上、なんと無料なんです。井川支所では、渡船利用促進のために職員と井川小中学校の子どもたちで

制作にあたってはデザイン、配布の対象者、配布方法、バッジに込める願い等々について子どもと大人が真剣に話し合いました。子どもたちは制作を通してふるさとの魅力を再発見でき、相手を意識することでより良い作品を作ることができました。



紅葉時期には多くの観光客が訪れ、初回生産分が終了したためバッジを増刷しました。全6種類のバッジをゲットしに、この機会にぜひ渡船に乗り井川の自然を満喫してみたいかがでしようか?



今回は、南アルプスあぶとライン(大井川鐵道井川線)初の女性運転士羽倉知世さんを紹介します。羽倉さんは、生まれも育ちも川根本町で都内の短大を卒業後、保育士の道へと進みました。その時、遠足で訪れた「鉄道博物館」で子どもたちと夢中になって見た電車で興味を持ち、鉄道会社へ転職を決意。全く業種の違う転職に友人たちからは驚かれたと言います。平成23年5月から奥泉

## いかわねの人々 Vol.6 羽倉知世さん(川根)

駅で駅員として入社後、運転士に憧れて車掌の業務経験を積み、内燃車運転免許を取得。平成27年12月から運転士として乗務するようになりました。平成29年3月11日から全線復旧するあぶとラインですが、羽倉さんに見所を聞いたところ「関の沢橋梁」の答えが。ここは、日本の高さを誇る鉄道橋としても有名ですが、写真撮影や景色を眺めるために徐行運転をしてくれます。徐行運転は、制御ハンドルをうまく調整しないと車両が揺れてしまうため、快適に乗っていただけのように運転する「腕の見せどころ!」と言います。

「将来は、電気車の運転免許試験にも挑戦し、あぶとライン全線を運転できる運転士になれたらな。」と、笑顔で語る羽倉さん。運転士という仕事が本当に好きなんだなと思う写真をパシャリ。

### いかわね新聞 編集後記

■「南アルプスあぶとライン周辺地域誘客協議会」が立ち上がりました  
■協議会では、「あぶと無人駅の利活用について」読者からのアイデアを募集しています  
【送付先】川根本町商工観光課 〒428-0411 静岡県榛原郡川根本町千頭1183-1 MAIL:shoko-kanko@town.kawanehon.lg.jp

## いかわねをつなぐ あぶとライン

千頭<sup>せんず</sup>駅から井川駅までの25.5km、標高差約400mの山岳区間を結び、いかわねの暮らしをつなぐ日本で唯一のアプト式鉄道、南アルプスあぶとライン。もともとは、水力発電所建設のための資材を運ぶトロッコ列車として使われていましたが、昭和34年からは、地域の暮らしを支える交通、観光の要となりました。

山間地域をゆつくりゆつくりと進む小さな赤い列車。深碧<sup>しんせき</sup>の湖面や木漏れ日、雄大なダムの景色だけでなく、列車のリズムや音が心地よく伝わるトンネル、作業を止めて手を振ってくれるお父さん、プラカードを持って出迎えてくれる駅員さんなど、歯車をひとつひとつ噛み合わせるように、ひとつひとつの出会いとおもてなしを、ゆつくりと楽しむことができます。

尾盛駅(かわね)と閑蔵駅(いかわ)との間にある、いかわねを結ぶ鉄道橋「関の沢橋梁」は、川底からの高さが約71mあり、日本一(私鉄)の高さを誇ります。いかわねを代表する「高い山、深い谷」が織りなす素晴らしい景観をゆつくり楽しむことができます。素晴らしい景観をゆつくり楽しめる優しいおもてなしが、温かい気持ちにさせてくれます。

速さや効率ばかりが求められるがちな日常。いつもは自動車で通り過ぎてしまいかわね路を、あぶとラインでゆつくり進んでみませんか。きっと、懐かしくも新しい出会いがあなたを待っています。

